

シルク・ドゥ・ソレイユ

アレグリア-新たなる光- 大阪公演に学ぶ

名誉会長 山田 正夫

アレグリア-新たなる光-は、「本質を見直す新たな挑戦」として進化を遂げ生まれ変わったとありました。「本質を見直す新たな挑戦」こそ日本体操協会はもとより、大阪体操協会においても喫緊の課題であると思っています。

アレグリアは、スペイン語で“歓喜”や“喜び”を意味します。作中では、「力の探求」や「変化への渴望」、「闇に対する光の勝利」をテーマに、変化する世界を駆け抜ける歓喜の旅が描かれています。

この度、大阪体操協会常務理事研修会を本公演に決めた第一の理由は、次代を担う協会役員の方々に、今こそ変化する体操界を駆け抜けていただきたいと願ったからに他なりません。

世界初のパフォーマンス「アクロ・ポール」には驚きましたね。貴族たちが頭上高く舞い上がり、スタントやピラミッドはもとより、「エアリアルバレエ」の華やかな動き、これぞシルク・ドゥ・ソレイユといきなり感動させられたものです。

歓喜の物語は感動・興奮・歓喜の内にストーリーは展開し、最後の最後まで観客を魅了させています。

世界最高のサーカス・エンターテインメント集団のパフォーマンスはなぜ人の心を魅了して離さないのでしょうか。観客の心をつかむストーリー、独創的な世界観の中で繰り広げられる限界まで追求した圧倒的なアクロバット、そしてそこには舞台美術や生演奏、照明、衣装、振付にいたる全てにこだわる芸術性の高さがあるからでしょう。

体操競技・新体操・トランポリン・一般体操とどれをとっても、選手・役員・審判員、またジュニア層やサポーターの拡充が急がれる今、シルク・ドゥ・ソレイユは私たちの競技とは異なるものですが、「体操とエンターテインメントの融合」にはアレグリア同様に「新たな光」があるのではないかと思います。

大阪体操協会では2025年の日本国際博覧会に合わせて、「Gala Gymnastics in KNSAI :いのちの賛歌」(仮称)を計画し、「いのち輝く未来に挑戦」をテーマにストーリーを組立てながら体操の全てを絡めればと考えています。また、翌年2026年は「全日本U12・U15体操競技選手権大会」を大阪で開催します。

これらを、それこそ「変化への渴望を」持って、新しい価値を見出すイノベティブなイベントとして成功させ、子供たちが体操競技・新体操はもとよりトラ

ンポリンや一般体操にも関心を持って、「体操大阪」の一員として育ってくれることを願っています。とは言え、体操とエンターテインメントの融合にはかなりの経費を必要とします。しかしながら、我々自身がこれをプロデュースするならば逆に収益を上げることも可能となるのです。

漆間会長を迎えた今、大阪体操協会の理事会が個性的な発想や表現はもとより、独創性をも備えた「クリエイティブな集団」であって欲しいと願ってやみません。

この度の研修会は常務理事と致しましたが、次回は理事全員に参加いただけるよう演目を精査してご案内させていただきます。みんなで歓喜の旅を続けようではありませんか。

<以下、提出順>

.....

『演者一人ひとりに見られた体操らしい美しい動き』

大阪体操協会常務理事 井上直也

会場となるテントの中に入っははじめの感想は「こんなに小さな舞台でアクロバットなど色々な演技ができるのかなあ」というものでした。しかし、5mほどの長い棒を4～6本使ったの演技（体操でいう鉄棒の懸垂やつり輪の上水平、下で棒を支える人と棒のしなりを活かした宙返りなど）が始まってみると、舞台いっぱいを使っの工夫された演技にまず圧倒されました。その後の演目も舞台の小ささを感じることもなくダイナミックな演技の数々。空中ブランコや男女ペアによるひもを使っ空中での演技が次々と出てきて、あっという間に時間が過ぎました。

短トラでのアクロバットや最後の空中ブランコはもちろん、それまでの演技でも倒立バランスや支持姿勢など体操らしい動きがたくさん見られましたが、その中でも私が一番感心したのは主役ではない周りを支える演者の動きでした。

新体操で見られるような立ち姿勢や息を合わせた動きなど身体を使っ美しく動く姿が随所に見られ、これらの動きこそ観客が感じる「美しい、芸術的な動き」なのだろうと思っました。このように美しく動く、見せる（魅せる）ことには体操的な動きが欠かせないと感じられたことが一番勉強になりました。

このような貴重な体験を企画し、手配していただいた山田名誉会長、また、田中範子先生に感謝いたします。この大阪公演中にもう一度行ってみたい！と思っ体験になりました。ありがとうございました！

.....

シルク・ド・ソレイユ【アレグリア】鑑賞感想

副理事長 林 啓明

シルク・ド・ソレイユのショーは以前に数回見たことがあるので特に目新しさはなかったが、それぞれひとつのストーリー性を持たせているのが楽しみの一つである。英語が理解できればもっと深く入ることができると思うが…

体操とサーカスの比較をすることは誠に失礼ではあるが、やはり体操との比較をしてしまう。体操は難しい事を簡単にやっているように表現する。

サーカスは難しい事をもっと難しくやっているように表現(演出)する。

お互いの良い所(見所)を理解して鑑賞する。

又表現という部分では、女子のゆかとも共通する所もあり、特にパントマイム的な動きは言葉がなくても、通じるものが感じられた。

サーカスを体操選手のセカンドライフとしてとらえることも一つ考えられる競技で特化した力を持っている選手(つり輪やトランポリン等)が、違う脚光を浴びられる世界である。

以上の点から、体操とサーカスの共通点を確認しながらの鑑賞は、非常に有意義な時間となった。

ありがとうございました。

.....

『協会役員として見たシルクドソレイユ』

常務理事 木村 功

今回、常務理事研修会としてシルクドソレイユ「アレグリア」を観覧させていただきました。誠にありがとうございました。

私は、協会役員として本公演を拝見させていただき、大変良い体験ができたと感じております。組技やタンブリング、音楽の使い方や衣装といった舞台演出など、これからの新体操の指導や作品制作に向けて考える良い機会となりました。また、興行として多くの集客をえるための工夫や宣伝活動など、現在、男子新体操として抱える課題に活かせるのでは考えさせられました。

前回の常務理事会においても、山田会長がおっしゃられたように「協賛を得るための努力や工夫」が大切だと感じました。私は協会役員として今後の大阪体操協会の活動がより良いものになるよう、これまでの考え方にとらわれず、様々な

ことにチャレンジしていこうと思います。

最後に、いつも協会運営のために様々な企画とアドバイスをいただきましてありがとうございます。大阪の男子新体操が全国に向けて恥ずかしくのないものになるよう、これからも全力で精進して参ります。

まだまだ未熟者ではありますが、どうか今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

.....

協会役員としてみたシルク・ドゥ・ソレイユ

上倉 鉄平

いつかは観に行きたいと思っていたシルク・ドゥ・ソレイユを今回観る機会を作っていただきありがとうございました。2時間があっという間に感じるほど、驚きと感動の連続でした。

個々の身体能力の高さはもちろんですがそれを引き立てる衣装や照明、そして何より音楽との融合が衝撃的でした。大会運営等でも新体操の先生方が音響業者を入れることにこだわりを持っているのも納得できます。最高の演技と最高の音楽が組み合わさって最高の作品ができるのだと思います。

また、集団ではなくソロでも多くの観客を魅了できるほどのパフォーマーさんに存在感には驚きました。集団での迫力ある演技とは違い、緊張感漂う中での息をのむパフォーマンス、身体能力の高さは素晴らしかったです。

全体を通して、サーカスというよりは劇団四季のような劇を鑑賞しているような感覚でした。座席は思ったよりも窮屈だなと感じましたが、ショーが始まってからはほとんど気になりませんでした。間の30分の休憩は少し長いのではと思いましたが、前半のパフォーマンスの感想を共有し、次はどんなことをするのかと想像を掻き立てられるような演出もあり、こちらもそれほど気になりませんでした。

「見せる」ではなく「魅せる」ことの難しさは常々感じていますが、今回の研修をうけ今後の大会等の運営でも観客をひきつけ満足させるようなイベントをすることが、昨今の競技人口の減少にも歯止めをかけることになるのだと思います。

また次回、このような研修があればぜひ参加したいと思います。

.....

「協会役員としてみたシルク・ドゥ・ソレイユ」

副理事長 濱本 匡

このたびは、研修会の機会をいただきありがとうございました。

学校からの引率では、シルクドソレイユや劇団四季などの公演も鑑賞しましたが、あくまでも引率なので落ち着いて観ることは出来ません。個人では、行きたいと思いつつも優先順位を後ろに回し機会を逃していました。

TV など画像では、伝わらない生の演技と緊張感を肌で感じる事が出来き、不安定な場所での演技には、クオリティーの高さに感動しました。また、プログラムとプログラムの間も観客を飽きさせることなく撒収とセットが連続して演技として続くところは大変勉強になりました。大会であっても、学校行事であっても観客(来場者)を待たず機会が多く何とか時程通りに進めるのがやっとという現状に「慣れがあるな」とあらためて感じました。

素晴らしい演技なのに、運営の不備などで感動に水を差してしまうことは多々あります。協会の運営も選手たちの素晴らしい演技を少しでも引き立てられるよう努力しないといけないことをあらためて感じました。

.....

『協会役員として見たシルク・ド・ソレイユ』復命書

報告者：藤原 美紀

この度は、視察の機会を頂戴し心より感謝申し上げます。

体操門外漢としての使命を心得「アレグリア」同様、異分野の思考をいかしたく共創から、貴協会の発展に微力ながら寄与できれば幸いです。ありがとうございます。

.....

「アレグリア」を鑑賞させていただき下記の点につきまして大きな気づきとヒントをいただきましたこと、またこれからのイベントなどに取り入れていくことのできる可能性を感じました。

① すでにある概念をさらに進化させる

サーカスの概念を芸術に進化させていることにより、サーカスの根幹や長所を踏まえうえで話題性や完成度を高めていること。

② コラボレーションによるエンターテインメント性の向上

体操や新体操競技の高度な技術を、音楽の生演奏やサーカスと融合させることでエンターテインメント性を高めていること。エンターテインメント性が

上がることで、興行としての「価値」と「質の向上」となっていること。

③ できそうにないことを実現することから話題性が生まれる

タンブリングのタイミングに合わせてシンバルをフォルテッシモに、タンブリングや新体操演技の技を、小節に合わせて展開するなど、異分野間における高いレベルでの共演が「感動」や「話題」をつくっていること。

『アレグリア』は、山田先生の常々おしゃっておられることや、実践してこられたことが凝縮されていると感じました。イベント、試合、あらゆる場面で上質かつ（お金をかけるという意味ではありません）丁寧な演出が、選手、観客に一体感や感動を与え、次につながるのだと感じました。常にいろいろなことを取り組み続けることでしか、さらなる発展がないこと。①少子化の中でも競技者人口を確保する ②これまで築いてこられた大阪の体操がさらなる飛躍 ③世界における体操ニッポンの発展に寄与すること。

選手のレベル向上施策とともに、あらゆる機会をとらえファンづくりを行い続けることで。体操競技を全くやったことのない人にも子どもの習い事の候補に入れてもらうことができるのではないかと感じました。発信することで少しでもお役にたてるよう精進させていただきます。

.....

“アレグリオ”を観て

副会長 市田 幸治

アクロポールを使っの組み体操、一気に引き込まれた。シルホイールを使っのパフォーマンス。2つの空中ブランコでギンガーやイエガーのような宙返りをしてシンクロする男女、ハラハラ・ドキドキした。豪快なファイヤードダンス。舞台の上空で、時に離れ時に抱き合い互いに手を握り合う、エアリアル・ストラップを使っの二人の美しい動きは息をのんだ。男性が十字倒立になり女性が下から手を広げ口づけするシーンはとても感動的だった。フープの演技も美しく素晴らしかった。十字になったトランポリンで宙返りの連続から伸身2回宙返りにひねりを加えたり、3回宙返りをしたり、高度なタンブリングの交差は圧巻だった。女性二人のアクロも美しく力強かった。そして最後の空中ブランコは、4つのブランコを使い、カッシーナやミヤチを思い浮かべるような宙返り、3回宙返りも難なく。高度な演技が、安定して連続された。只々目を見張るだけだった。素晴らしいパフォーマンスの連続に加え、二人の女性の歌。沢山の楽器の生

演奏。照明・舞台美術と芸術性の高さにはびっくりした。また、演者の台詞に片言の日本語が含まれ、『なんでやねん』と笑いをとるところは楽しかった。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

シルクドソレイユ 「アレグリア ー新たなる光ー」鑑賞 報告

副会長 森 令子

このたび常務理事会研修として、世界最高峰のサーカス・エンタテイメント集団シルク・ドゥ・ソレイユによる5年ぶりの日本公演『ダイハツアレグリア-新たなる光-』を8月17日に鑑賞させて戴きました。

当日は会場地「森ノ宮駅」は混雑する事を予想して出掛けましたが、乗降客も少なく駅構内には公演の道案内も見当たらず戸惑いつつ歩く中ようやくお馴染みの建物<森ノ宮ビッグトップ>に到着し、これから繰り広げられるパフォーマンスに期待で心が弾む思いでした。

本会場に足を踏み入れた瞬間、会場の大きさと収容観客席2800席はほぼ満席の状態に驚き、既存の建物では無くこのような施設が設置される動力にも驚きました。

いよいよ開演となり照明が照らされる中、音楽・歌も生演奏で迫力もあり、大阪弁で笑いをとるなど観客を引き入れてのパフォーマンスは場内を沸かせ盛り上げ楽しませた演出でした。

数々のプログラムの中で心に残った演目としては、火を使ったファイアーナイフ、女性2人組のアクロソしてなんと言ってもサーカスのメインである空中ブランコの曲芸でした。

全てのショーは鍛えられた身体・体幹と熟練された技術の演技であり、流石世界に誇る曲芸集団であることそして何度も観客が足を運ぶ人気の所以であることを認識させられました。

「アレグリア」は日本語で「喜び・歓喜」、世界をかけぬける歓喜の旅がテーマで道化師二人を中心に展開する物語のあらすじを事前に知っておけば更に楽しめたかなと反省をいたします。

このたびの公演を鑑賞して感じたことは、体操界に於いても採点競技の体操とは別に一般観客が観て楽しめる体操の祭典「GALA」を催し「体操」をアピールしていくことも将来の課題かなと感じました。

最後になりますが、このような鑑賞の機会をいただき感謝申し上げます報告いたします。

.....

協会役員として見たシルクドソレイユ

常務理事 倉田佳幸

大阪の夏に突如現れた青と黄色の異国情緒を放つ建物で、シルク・ドウ・ソレイユのアレグリア～新たなる光～を観て、私は2つのプロフェッショナルを感じた。

1つめは、圧倒される個々のパフォーマンス力。鍛え抜かれた身体・柔軟性から繰り出される表現力、また、その対極となる言語を超えたコミカルな表現。加えて、歌唱・演奏がすべて生演奏であり、メロディだけでなく音の圧まで肌で感じる事ができた。チームの一人ひとり全員が、それぞれに高い目標を持ち、日々の鍛錬を継続する姿勢に「これぞプロフェッショナル」と痛感した。

2つめはチームパフォーマンス。個人のプレーに演奏や演出、ステージ転換など、お互いの呼吸でタイミングを合わせている姿に、本番だけ合わせるのではなく、練習段階から全員が全力で協力している姿勢が目についた。お互いの専門分野においてチームのために力を出し惜しみせず、日常会話レベルで業務を共有することの大切さを実感した。

大阪体操協会もスペシャリストの集団である。新たな挑戦、誰もやっていないことも自分たちならできると信じ、組織で共同・協同し、体操の普及・発展に今後より一層貢献していきたい。